

第 4 回 高 校 生 東 南 ア ジ ア 小 論 文

コ ン テ ス ト

優 秀 賞

愛 知 県 立 中 村 高 等 学 校 1 年

西 岡 珠 希 さ ん

第4回優秀賞作品
西岡 珠希さん(ベトナム部門)

三角形の菅笠に天秤棒の行商スタイルは、ベトナムでは珍しくはない光景だ。ベトナムと言えど？という問いに対し頭をよぎるイメージの一つではないだろうか。この天秤棒での品物の売買は、旅行者がベトナムらしさを味わうのに十分その欲求を満たしてくれる。

しかし、一方では押し売りや不当な価格設定など、旅行者に対する不正行為が旅先のトラブルとして多くの声が上がっているのも事実のようだ。写真が撮られたホイアンは、かつて朱印船貿易の時代に国際貿易港として繁栄した街で、現在は世界遺産登録もされている。比較的治安はいい地域らしいが、多分にもれず上記のようなトラブルの報告は尽きないとのこと。

そんな背景を踏まえつつ課題となった記事を繰り返し読んでみる。不意に近付いてきた天秤棒を担ぐ女性に対する記者の勘違いにクスッと笑ってしまった所見とは違い、この記事の中に、先入観は人の視野を狭くすると言

第4回優秀賞作品
西岡 珠希さん(ベトナム部門)

うメッセージが見えたように思えた。

ベトナムの旅行者が遭遇するトラブルは様々あり、天秤棒商いの押し売りについては昔ながらと言っては語弊があるが、未だ数多く発生している。大抵は品行方正な商売をしているのだろうが、一部の悪しきイメージが先行きし、そのイメージが私たちの中に知らず知らずのうちに植え付けられていく。

この記事を書いた記者もきっとどこかでそんな先入観を持ち、天秤棒を担いだ人に気を付けろと言う一種の防衛本能から、ついつい身構えてしまったのではないだろうか。

バナナや揚げパンなどの商品の押し売りに限らず、おもむろに天秤棒を押し付け担がせてフレンドリーに記念撮影をしてお金を取るなど、昨年でもそうした旅先でのトラブルは絶えないそうだ。

先入観と言うものは厄介で一度持ってしまうとなかなか払拭することは難しい。それを取っ払いオープンマインドで人と接すること

第4回優秀賞作品
西岡 珠希さん(ベトナム部門)

が出来たならなんて素晴らしいだろう、そう分かっていても理想の自分には近付けないのが現実である。

先入観を持たずに見たなら、被写体の笑顔は優しく温かく思える。しかし、ある意味素直な自分の感情のまま見ていると、この笑顔には何かがある、油断させようとしている、などとそれこそ偏見に満ちた見方もできてしまうのだ。同じものを見ても、その見方や捉え方は自分の中に根付く思考性によって大きく変わるものだと私は思った。

見知らぬ人に不意に近付いて来られたら、身構えてしまうのは自己防衛や、まして旅先での危機管理の観点からすればおかしなことではないだろう。ここで反省すべきは先入観に捉われた身勝手な悪い想像。それにより真実や本質を見逃していかないだろうか。人や物事、何に対しても先入観に捉われることなく、フラットで心広くありたいという理想に、少しでも生身の自分を近付けていきたい。

第4回優秀賞作品
西岡 珠希さん(ベトナム部門)

参 考 資 料 :

ホ ー ム ペ ー ジ

外 務 省 ベ ト ナ ム 社 会 主 義 共 和 国

ホ ー ム ペ ー ジ

タ ビ ナ カ マ ガ ジ ン ホ イ ア ン 観 光

ホ ー ム ペ ー ジ

た び コ フ レ ベ ト ナ ム ら し さ

ホ ー ム ペ ー ジ

地 球 の 歩 き 方 び っ く り ト ラ ブ ル

ホ ー ム ペ ー ジ

ベ ト ナ ム ホ ー チ ミ ン 生 活 だ よ り